

## 『素人の京都観光ランキング』

選考委員長 村野 健太郎

京都に移り住んで1年半になろうとしている。京都の神社・仏閣を見て歩くことと京都大学の学風を体で体感することの一部は出来た。1年目は神社・仏閣巡りが主、京都大学が従、2年目は京都大学が主、神社・仏閣巡りが従であった。

で大胆にも素人の京都観光ランキングを披露したい。

### 京都観光ランキング

1－5位（順不同）

伏見稲荷大社 龍安寺 三十三間堂 東寺 宇治平等院鳳凰堂

季節限定1－5位（一部他地域を含む）

紅葉の永観堂 桜の吉野山の千本桜 桜の姫路城 雪の金閣 梅の北野天満宮



伏見稲荷大社



龍安寺石庭

一位から五位は、順位は付けられないが以下が最も妥当であろう。

伏見稲荷大社は、朱に塗られた鳥居が多数林立して回廊を成して、人はその鳥居の下をくぐって身を清めながら奥の方へ進んでいく。その独特さは素晴らしいものである。残念なことは、観光客が多数押し寄せて大混雑となり、そのような効果があるのだろうかとの疑問に思われることである。

次は龍安寺の石庭。このようなほぼ岩と白砂でできた禅寺庭園（枯山水庭園）は、京都市内には多数あるが、龍安寺の石庭がその一番であろうかと思われる。庭全体の広さと形、背後の壁の高さと色、その中の石群の配し方、全体が絡みあって崇高な世界を表現している。この石庭を見ながら、その人にとって一番大事な事に想いを馳せて熟考するのは、人生を見直し何か得るものがあると思われる。

三十三間堂は、お寺の中でも動的なお寺を主張していることになる。数え切れないほどの仏像が整然と置かれており、説明によると誰一人としてまったく同じ顔は無いと言う。ゆっくり見て歩くとやはりその数の多さに圧倒されるし、仏教（仏像）の重みをひしひしと感ずること

になる。先の龍安寺の静的な主張をしている仏教と対比を成すものである。

これまで述べた三か所は、ほとんどの人がと言っても良いくらい多数の人に評価されている地点である。

私が次に選んだのは東寺（教王護国寺）である。東寺は新幹線の車中から五重の塔が見られるために、みんな知っているし見た気になってしまうが、やはり実際に訪問して全体をゆっくり回ってみるべきお寺である。というのは、桓武天皇が平安京を作った時（794年）に普通であれば奈良の大寺院を京都へ移すというのが歴史的な流れであるが、それを敢えてしなかった。奈良時代の仏教のしがらみを排除するためであるという説が最もよく伝えられている。そのため平安京には東寺と西寺を、朱雀通り（御所の前の広い中央通り）を挟んで造った。しかも平安京が出来てすぐにである。その後色々な歴史を経て、西寺は跡形もなくなり、現在は西寺のかつてあった場所に西寺跡という小さな石柱が残るのみである。一方東寺は、桓武天皇の後の嵯峨天皇から空海に託され、空海理想の伽藍が造られた。現在ほぼ出来た時の敷地のままを確保して、また建物ももちろん地震、火事などで焼失した後建て替えられているけれども、ほぼ同じ場所に建てられている。つまり東寺の敷地内はほぼ平安時代空海が考えた頃のままであるということになる。もちろん敷地内には現代のものがたくさん入り込んでいるけれども、大枠平安京の始まりを彷彿とさせるような佇まいになる。東寺の五重塔は、現存している国内のお寺の五重の塔としては最も高さが高い。東寺は教王護国寺として真言宗の道場となり、それが面々と今も伝えられている。東寺には立体曼陀羅という実際に仏像を彫像として造って配置して密教の教えを視覚化した空海による荘厳なスペースがある。そこに足を踏み入ると仏教（仏像）の迫力、重々しさを痛感させられる。



東寺五重塔

次は宇治にある平等院鳳凰堂である。当時の京都では天皇家の人達や上流階級の貴族の人達は嵐山とか宇治に別荘を持っているのが一つのステータスであった。その頃であるから移動に時間がかかるのに、なぜそんな所と言われるかもしれないが、やはり当時の貴族や天皇にとって風流を愛でるといのはその人の人格、レベルを表しているということになっていたのであろうと推察される。嵐山や宇治に別荘を持ってこそ一人前という位の感覚なのではなかろうか。また嵐山はともかくも宇治は京都から奈良、長谷寺、室生寺詣り、そういう願懸け、願ほどきが当時は頻繁に行われていたのであるが、その時の宿泊地、二、三日宇治で遊んでからもっと南へ行くというような使われ方もしていたのであろうと思われる。藤原道長は宇治に別荘を持っていたが、それを引き継いだ子・頼道は別荘を仏寺にあらためて平等院を造り、極楽浄土への生まれ変わりをイメージするために鳳凰堂を建てた。他にも多くの堂塔が建設されたが、度重なる災害を唯一この鳳凰堂だけは逃れて平安時代の貴族の想いを伝えている。やはり藤原頼道が極楽浄土を再現したという平等院鳳凰堂は必見の場所であると思われる。

## 季節限定の一位から五位

まず紅葉。これは永観堂で、やはり紅葉の王様というべきものである。私に言わせれば永観堂が一位であると、二位から五位は無くて次は六位に次に紅葉で有名なお寺が位置するというくらい、ずば抜けていると思う。紅葉の木の多さ、色の付き具合、伽藍や庭との調和の仕方、そういう全てを含めて紅葉は永観堂である。

次に桜、これは京都以外になっている。一つは吉野山の千本桜であり、山全体という広大なエリアが白く色づいているのは本当に壮観としか言いようがない。しかも標高差があるのでまかり間違えば上が満開の時には下は枯れているとなるのであるが、下から上までなんとか満開の状況でみるのがピンポイントでも出来るというのは素晴らしいことである。次も京都以外であるが、桜の姫路城である。桜自体を切り出せば他の所にもあるような数や種類の桜であるが、姫路城の天守閣或いは白い壁に満開の桜があるというのは非常に映える。やはり京都市内の桜の名所を押しつけて、この二つが選ばれることになる。

次は雪の金閣。普通の時でも金閣はそれなりに観光スポットとして評価されるが、雪の金閣はもう一段高みにあると思われる。白い雪に覆われた中に金色の金閣が凛然と、白を従えて金色を映えさせているというのは本当に見ごたえがある。

梅の北野天満宮。自分的には北野天満宮は神社としてはそれほど高く評価しない。というのは鳥居が朱塗りでないからである。やはり神社の鳥居は朱塗りと私は考えている。でも梅の木の多さ、種類、植わっている場所、そういうことを含めて梅は北野天満宮である。プラス $\alpha$ を言うと、北野天満宮には豊臣秀吉が京都市内の洛中を城郭都市とするために築いた御土居が残っている。御土居の西側の部分が北野天満宮には残っているので、そのことでも評価は高くなる。



永観堂の紅葉



吉野山の千本桜



姫路城と桜